

事例 36 八溝山系におけるシカ被害防止に向けた取組

(関東森林管理局 茨城森林管理署)



- ・茨城県久慈郡(くじぐん)太子町(だいがまち) 八溝(やみぞ)国有林
- ・センサーカメラに映ったシカ
(令和4年10月)



- ・茨城県笠間市(かさまし)北山(きたやま)国有林
- ・くくりわな設置の実習

福島県、茨城県、栃木県の3県境にまたがる八溝山^{やみぞさん}とその周辺地域は、良質なスギ・ヒノキ材が産出される林業・木材産業が盛んな地域です。

同地域はニホンジカの生息密度が低いとされてきましたが、近年、生息域の拡大、森林被害の発生が懸念されているところです。

このため、関東森林管理局では、関係森林管理署と関係自治体が連携して、センサーカメラ等によるニホンジカの生息状況の把握や捕獲等に取り組んでいます。

これまで、同地域における捕獲事業でニホンジカが捕獲されたことはありませんでしたが、令和3年度に初めて福島県においてニホンジカ1頭が捕獲され、令和4年度には福島県と茨城県においてニホンジカ4頭が捕獲されました。

また、同局森林技術・支援センターは、令和4年12月、福島県、茨城県、栃木県の県・市町村の林務担当者を対象として現地検討会を開催し、ニホンジカによる森林被害対策の必要性について認識を深めてもらうとともに、小林式誘引捕獲法の紹介とくくりわな設置の実習を行いました。

引き続き、関係機関と地域一帯で対策を進め、ニホンジカの定着防止を図っていきます。